

1. 学歴

1971年 3月 成蹊大学経済学部卒業
1971年 4月 成蹊大学大学院経済学研究科修士課程入学
1973年 3月 同修了(経済学修士)
1973年 4月 成蹊大学大学院経済学研究科博士課程入学
1975年 9月 ペンシルベニア大学大学院経済学研究科入学
1981年 5月 同修了 (Ph.D. in Economics)

2. 職歴・研究歴

1970年 日本経済研究センター計量研究部産業班研究助手 (1975年まで)
1979年 7月 ラトガース大学経済学部講師・助教授
1986年 9月 富山大学経済学部助教授
1990年 4月 筑波大学社会工学系助教授・教授 (同研究科長 1996年 6月-1997年 3月) (1999年 3月まで)
1999年 4月 一橋大学大学院経済学研究科教授 (筑波大学社会工学系併任 1994年 4月-2001年 3月)

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

統計学入門, 上級計量経済学

(b) 大学院

上級計量経済学 , ワークショップ

B. ゼミナール

学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

2007年度担当予定の数量経済分析 は 300 番台の授業だが, 大学院学生向けの上級計量経済学 の準備としての(橋渡しの)性格を持つので受講生には, その点を強調して確率・統計, 行列代数を学ぶことの動機付けとしている。このため, この授業は夏学期開講となっている。上級計量経済学 は, 従って冬学期に開講している。上級計量経済学 では, 大学院修士レベルの計量経済学理論の基礎的なところを講義し, 同時に実証にも役に立つよう応用例を多く取り入れている。学部向けの1・2年時向けの統計学入門では記述統計と確率論の初歩を講義するが, ここでもエクセルを使って実際に受講者が統計処理を行えるようにすることを心がけている。また, 後に計量経済学へ進んでいくとき役に立つような統計学の入門講義をしている。2007年度担当予定の計量ファイナンスAでは, 計量経済学の手法を使った計算機的ファイナンスの講義を行う。ここでも金融工学の分野で実際に有用な計算手法を主に取り上げる予定。

大学院のゼミナールは、経済統計グループ 1 年次生のための計量経済学テキストの輪読会と学位論文をまとめている学生のための研究発表会の二つの性格を持っている。

4. 主な研究テーマ

- (1) 計量経済学の方法論, 理論
- (2) 計量ファイナンス, 実証マクロ経済学

まず (1) について: 私は、実証・応用における問題点を理論的に解明するという姿勢で計量経済理論面における研究を行ってきた。例えば *Review of Economics and Statistics*, 1979 に掲載された貯蓄関数の論文を執筆していて、回帰係数の時変性をどの様に取り扱うかが問題となったが、その後、当時発表されたばかりの Cooley and Prescott の時変係数モデルを理論的に検討した研究が *Economic Studies Quarterly* 1981 の論文になった。Ph.D. 学位請求論文では、回帰係数の変化を総括的に扱い、*Journal of Econometrics* 1982 論文では、*Review of Economics and Statistics*, 1979 当時から取り組んでいた Bayes 的手法でマクロ経済モデルにおける変化する回帰係数の問題を解明した。現在では、2000 年から 2002 年の論文のように Bayes 的手法以外にも bootstrap 等も用い computational econometrics 的な方向を目指し研究を行っている。

次に(2)について: 上述のように私の理論面の研究は常にマクロ経済学や実証ファイナンスの分野の問題に動機づけられたものである。貯蓄関数についての *Review of Economics and Statistics*, 1979 論文、政策に関する産出量と物価水準のトレードオフに関する *Weltwirtschaftliches Archiv*, 1989 論文や *Journal of the Japanese and International Economies*, 1993 論文、貨幣需要関数を検討した *Economic Studies Quarterly*, 1991 論文はいずれも実証マクロ経済学の範疇に入れて良い。最近では計量ファイナンスに関する研究を行っている。

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文(査読つき論文には*)

- * "The personal savings function of urban worker households in Japan," *Review of Economics and Statistics*, 1979, Vol.61, pp.206-213.
「産業金融モデルとシミュレーション実験」(渡辺健一, 上野裕也氏と共著) 上野裕也編『多部門モデルの開発と応用』に所収, 日本経済新聞社, 1980 年, 169-244 頁。
- * "On Cooley and Prescott's time varying parameter model," *Economic Studies Quarterly*, Vol.32, 1981 (with Hiroki Tsurumi), pp.176-180.
"Essays in Varying Parameter Models," Ph.D. thesis submitted to the University of Pennsylvania, May 1981.
- * "Consistent estimation of the time varying parameter model," in O.D. Anderson and M.R. Perryman eds., *Applied Time Series Analysis*, North-Holland, 1982 (with Hiroki Tsurumi), pp.375 -382.
- * "A Bayesian analysis of a random coefficient model in a simple Keynesian system," *Journal of Econometrics*, Vol.18, 1982 (with Hiroki Tsurumi), pp.239-249.
- * "Bayesian and non-Bayesian tests of independence in seemingly unrelated regressions," *International Economic Review*, Vol.29, No.2, 1988 (with Hiroki Tsurumi), pp.377-395.
「日本の貨幣需要関数の統計的推測」(齊藤吉宏氏と共著)『富大経済論集』 Vol.33, 1988 年, 717-736 頁。
- "Comparing dimensionality statistics for the vector autoregressions (VAR) method,"『富大経済論集』 Vol.34, 1989 (with Hajime Wago), pp.661-685.
- * "Price smoothing and demand noise: On business behavior and macromodels," *Weltwirtschaftliches Archiv*, 1989

(with Douglas Shaller), Band 125, Heft 1, pp.83-96.

「回帰分析の基礎の学び方:第5章」 刈屋武昭, 佃良彦編 『金融・証券数量分析入門』 東洋経済新報社, 1991, 61-74 頁。

* "Statistical Inference of the Japanese M1 and M2 Money Demand Functions," *Economic Studies Quarterly*, Vol.42, No.3, 1991, pp.254-274.

* "Price smoothing and demand noise: Japanese case," *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol.7, 1993(with Douglas Shaller), pp.32-56.

* "MICRO-EBA: Leamer's extreme bounds analysis on GAUSS," *Journal of Applied Econometrics*, Vol.7, 1992, pp.101-103.

「証券市場収益率の予測-幾つかの新しい方法と予測力の比較」 『MTEC ジャーナル』 Vol.5, 1992 年, 35-48 頁。

「電気通信事業における幾つかの時系列の分析」 『郵政研究レビュー』 第4号, 1993 年, 179-211 頁。

「電気通信需要の計量経済学的分析」 (中妻照雄氏と共著) 『郵政研究レビュー』 第4号, 1993 年, 213-242 頁。

* "Asset price prediction using seasonal decomposition," *Financial Engineering and the Japanese Markets*, Vol.1, No.1, 1994 (with Yasuhiko Takeji), pp.37-53.

* "The Japanese stock market and the macroeconomy: An empirical investigation," *Financial Engineering and the Japanese Markets*, Vol.2, No.3, 1995 (with Manabu Asai), pp.159-167.

* 「先物金利モデルの予測力:HJM モデルを中心として」 (浅井学, 高橋利幸氏と共著) 『ジャフィー・ジャーナル』 (東洋経済新報社), 1998 年, 151-171 頁。

「米価と米の供給行動に関する研究-自主流通米市場価格を中心として」 (高田しのぶ氏と共著) 『多目的データバンク年報』, 1999 年, 49-60 頁。

"A New Method of Econometric Model Simulation: Resampling Approach," (竹田智哉氏と共著) 筑波大学社会工学系 DP-894, 2000.

「ファイナンスにおける時系列手法-回帰分析における時系列的問題」 『証券アナリスト・ジャーナル』 Vol.39, No.10, 2001 年, 78-89 頁。

「ファイナンスにおける時系列手法-単変量時系列モデル」 『証券アナリスト・ジャーナル』 Vol.39, No.12, 2001 年, 84-96 頁。

"A New Method of Econometric Model Simulation: Bootstrapping Approach," (竹田智哉氏と共著) mimeographed, 2002.

「ファイナンスにおける時系列手法-単位根を持つ時系列」 『証券アナリスト・ジャーナル』 Vol.40, No.4, 2002 年, 97-114 頁。

「ファイナンスにおける時系列手法-非線形時系列のモデル」 『証券アナリスト・ジャーナル』 Vol.40, No.7, 2002 年, 58-72 頁。

「ファイナンスにおける時系列手法-季節性分解法」 『証券アナリスト・ジャーナル』 Vol.40, No.10, 2002 年, 83-104 頁。

「構造を仮定しない不均一分散の推定」, 千木良弘朗・斯波恒正, 一橋経済学, 第1巻第1号, pp.1-13, 2006.

"Bayesian estimation of unknown heteroscedastic variances," Chigira, H. and Shiba, T., Hi-Stat Discussion Paper No.185, 2006, 16 pages.

(c) 翻訳

「計量経済分析:原著第4版」 (浅井, 高橋, 中妻氏と共訳) W.H. Greene 著, 2000 年。

B. 最近の研究活動

(b) 国内研究プロジェクト

「数理ファイナンスのための統計理論と時系列分析による検証」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A) (2),
2002年度-2004年度, 研究分担者

6. 学内行政

(a) 部所長・評議員等

教育研究評議員 (2006年度-2007年度)

(b) 学内委員会

入学試験制度委員 (2002年度)

広報委員会委員 (2002年度-2003年度), HQ 編集委員(2003年度)

国際交流セミナー専門委員 (2002年度)

附属図書館委員 (2003年度-2004年度)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

国際基督教大学・社会科学科, 国際関係学科 (-2003年度)

成城大学・経済学部 (-2004年度)

(b) 参加学会および学術活動

日本経済学会

日本統計学会

日本金融・証券計量・工学学会(英文誌編集担当理事, 英文誌副編集者・編集者: 1993年より2000年6月まで, 評議員: -現在)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

日本証券アナリストジャーナル編集委員